



グループ別公開授業研究会、お世話になりました

本校では教員の専門性向上に資する取組として、長年、一人1授業に取り組んできました。今年度はこの成果と課題を踏まえ、新しい授業研究のスタイルへと舵を切り、全31回34本の授業を公開していただきました。先生方には計画・運営に御協力いただき、本当にお疲れさまでした。

加賀田校長先生からのコメント

授業公開ありがとうございました。授業参観や事後研への参加ができないことが多々あり失礼しました。どの授業を見ても子どもたちが学習に向かう姿勢が素敵でした。落ち着いて、また自分の力で学習に向かおうとしている子どもたちの姿を多く拝見しました。子どもたちは着実に力を伸ばしていただいています。「次のステップは何だろう?」、「子どもたちだけでもその活動はできるかも?」等、妄想と期待を膨らませていただきました。

オーダーを出していただく研究の進め方も新鮮で多くのことを考える機会となりました。樹木に例えると根、幹、枝葉の部分に当たるオーダーがあり、根、幹に当たるオーダーには、教育基本法や特別支援教育の定義、新学習指導要領第1章「教育課程の基準の改善の趣旨」等を確認しました。ピアジェの知能の発達、エリクソンのライフサイクルモデル、ワークシステム実施に当たっての課題分析と評価等、昔々担任をしていた頃に参考にしていただいていた文献を引っ張り出して確認したりしました。

枝葉に当たるオーダーには、変化していく社会・自然環境や家庭生活の実態を把握し対応していくことが大切かと思えます。AI等の知識に乏しく、今を生活している子どもたちの生活実態・才能等を十分に知らない自分があります。また、「持続可能な社会」へ向けての消費行動や環境保全とライフスタイル等についても、もっと教材研究を深める必要性を感じました。未完成な子どもたち同様、私自身もわからないことだらけです。子どもたちや多様な才能をお持ちの先生方に教えていただきながら、共に学びたい、学びを楽しみたいという思いを強くしていただきました。

授業の中では、「振り返り」を大切にされていました。振り返りにはやはり「板書」が子どもたちの支援になることを思います。本時の授業で子どもたちに伝えたいことを明確化する「板書」の工夫を取り組んでいただきたいと望みます。子どもたちに試行錯誤させ、自分なりの考えを育み、更に自分が努力し、成長してきた足跡が確認できるような、「発問」「板書」「ノート指導」の教育技術はまだまだ工夫できる、伸びしろの多い分野のように思います。

うまく指導できなくて迷惑をかけた失敗から学んだ自分自身の教師としての歩みを振り返る機会にもなり、子どもたちにはより多くの失敗体験も経験しながら、「なりたい自分」への歩みを進めてほしいと願います。実態に始まり実態に終わる教育。子どもたち一人一人の「持てる力」「願い」等の実態把握をさらに深め、人生の主人公として生きる子どもたちを支援できればと思います。

授業準備など大変だったと思います。研究部の先生方にも大変お世話になりました。多くの学びをいただき、ありがとうございました。

谷口教頭先生より～授業を公開するという事～

長く子どもの前に立っていると、授業中自分が緊張していることを忘れていく。忘れていくから緊張していないかということ、そういうわけではない。できるだけ計画通りに授業を進めようとするし、何か起きたらこう対応しようという注意を払っている。研究授業は自分が緊張しながら授業をしていることを再認識することができる。よく「普段着の授業を見ていただきます」のような耳障りの良いことも聞くが、あえて「目いっぱい着飾った・・・」授業を考えてみてもいいと思う。そこから、必要なこと、不要なことが見えてくるかもしれない。

耳障りの良い言葉といえば「主体的・対話的で深い学び」もそうだ。いきおい「なるほど」と思ってしまう。しかし、日常の授業と照らし合わせると「なんのことやら」と思うことも少なくない。まだ始まったばかり。この先10年考え続ける課題でもある。きっと10年後には「主体的・対話的で深い学び」の概念も変わっているに違いない。